

ミヒャエル・ザイラー氏 (Michael Sailer)



1999 年より：ドイツ連邦政府環境・自然保護・原子力安全省（BMU）の原子力安全委員会（RSK）委員。

2002 年 3 月より現在：上記原子力安全委員会の委員長。

[www.rskonline.de],

1999 年より現在：RSK の供給と放射性廃棄物管理小委員会の座長。

1999 - 2002 にかけて：放射性廃棄物処分場選択に関わる手続きと基準を促進するための専門家委員会 AkEnd (Arbeitskreis Auswahlverfahren Endlagerstandorte, Committee of experts to develop a procedure and criteria for the selection of repository sites for radioactive waste)のメンバー。 [www.akend.de]

=====

1953 年生まれ。

ダルムシュタット工業大学にて化学工学を学ぶ。1982 年卒業。

1975 年より原子力発電に関するさまざまな問題に係わり、1980 年よりダルムシュタットのエコ研究所（生態系適応研究所）で働く。エコ研究所では、原子力エンジニアリング・プラント安全部門を立ち上げ、立ち上げより部長を務める。また、1999 年よりエコ研究所の副代表となる。

エコ研究所は、1977 年に設立された、100 人のスタッフ（うち 70 人が研究者）を有する、独立した科学調査研究機関であり、フライブルグ、ダルムシュタット、ベルリンにオフィスを構えている。 [www.oeko.de].

1980 年から、ミヒャエル・ザイラー氏は、原子力業界における専門家、コンサルタント、アドバイザーとして活躍。活動は、ドイツやその他の国々における、原子力発電施設の安全性、核拡散問題、放射性廃棄物管理と最終処分問題、などを焦点としている。

活動範囲：政策と法律（環境法、ガバナンス）、安全性と健康（施設の安全性、放射線防護、放射性廃棄物管理）

コンサルタンシー：調停に関わる提言、法律・規制の作成、政策提言

システム・アナリシス：安全性とリスク分析、シナリオ作り、技術評価